

R4-R8の日高地域等の減災に係る 取組方針(第2期)での特筆事例

●各機関の特筆事例

○御坊市：日高川における水辺空間創出の取り組み（高水敷の利活用）

○美浜町：防災重点農業用ため池の改修

○日高町：風水害ハザードマップの更新

○由良町：災害情報伝達手段の強化

○印南町：排水作業箇所における据え付け型排水ポンプの設置整備

○みなべ町：防災備蓄倉庫の新設に向けた取り組み

○日高川町：被害を軽減させる取り組み

○和歌山県：水害リスク情報の高度化

（参考：西牟婁地域の事例）

●田辺市：老朽化したポンプ場の改築及び改修

取組内容

⑤河川管理施設等の整備に関する事項

■河川管理施設等の整備状況

・河川敷の樹木対策

●日高川における水辺空間創出の取り組み(高水敷の利活用)

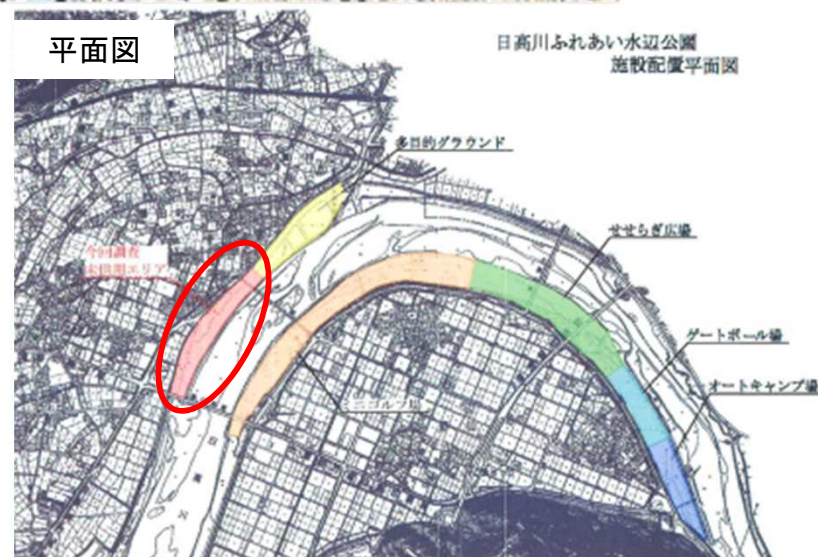
取組概要

洪水時の水位を安全に流下させ、堤防背後の人命・財産を災害から守るため、日高川野口橋上下流域(右岸)において、令和2年度に和歌山県にて樹木伐採を実施し、治水安全度の向上を図ったところです。

当区間の河川敷について、再び樹木地とならないよう、「日高川かわまちづくり協議会」にて、民間活用も含めた河川敷の利活用について検討を行っているところです。

「日高川かわまちづくり協議会」

日高川下流域の御坊市、関係団体及び地元住民と和歌山県が相互に連携し、日高川の水辺に河川空間とまちの空間が融合した魅力ある地域を創出するため、今後の方向性や具体的な手法について検討を行うことを目的に設置



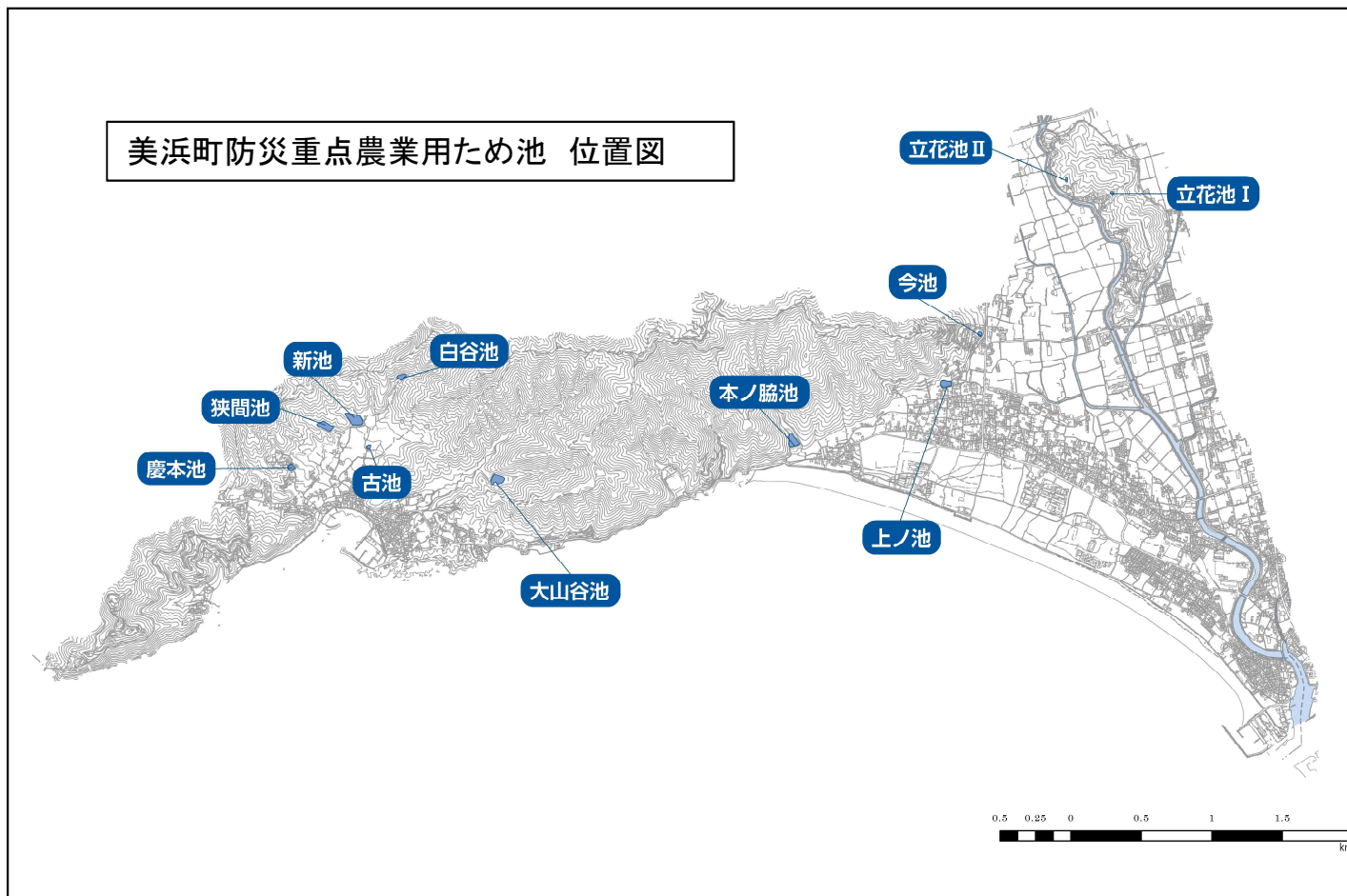
2級河川日高川河川敷 約3ha

取組内容

- ⑤河川管理施設等の整備に関する事項
 - 流出抑制・内水対策
 - ・ため池改修、事前放流・低水位管理
- 防災重点農業用ため池の改修

取組概要

美浜町では、令和3年度に防災重点農業用ため池劣化状況評価及び豪雨耐性評価を実施。評価の結果を踏まえて、必要に応じた防災重点農業用ため池の改修を進めていきます。



(狭間池)



(白谷池)

調査状況写真

取組内容

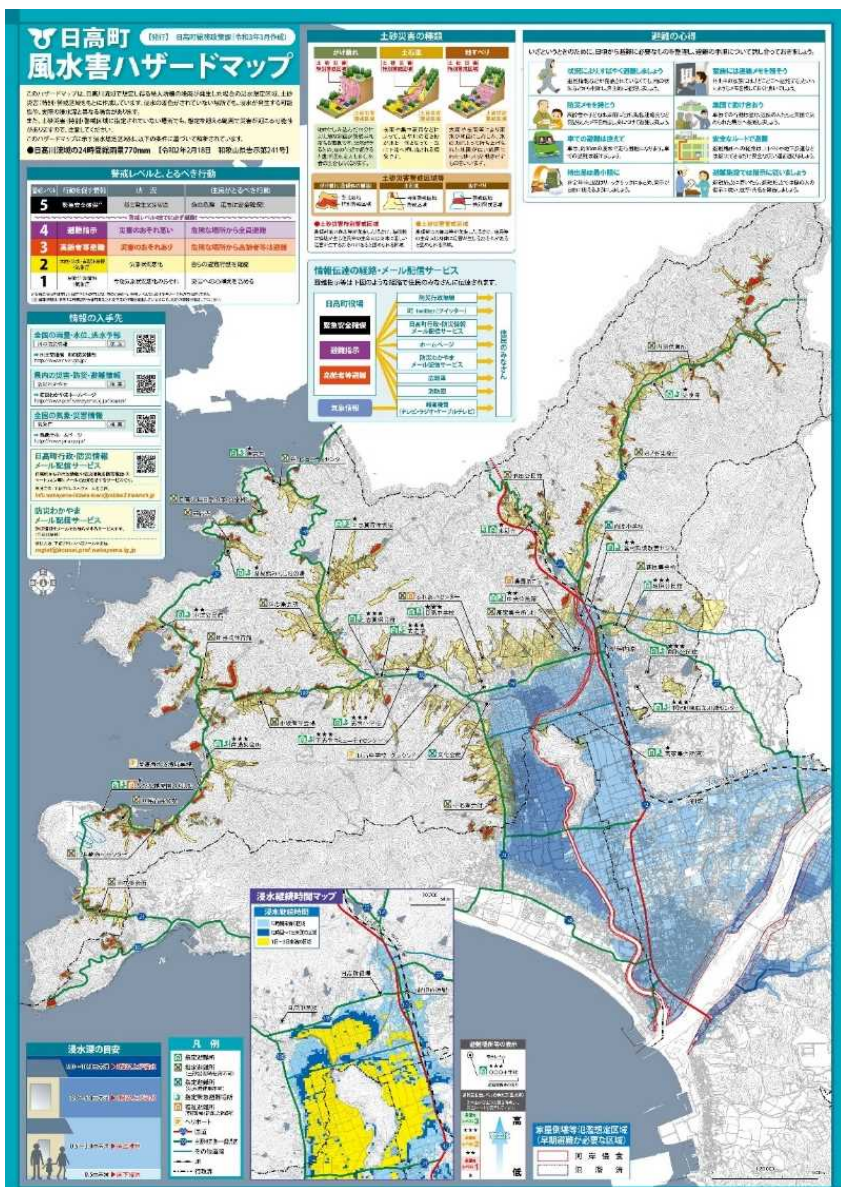
①情報伝達、避難計画等に関する事項

■避難場所・避難経路について

・想定最大規模の浸水想定区域図に基づくハザードマップの作成

● 日高町風水害ハザードマップの更新

取組概要



【目的】

・浸水箇所等を明確にすることで、危険な場所を把握し、避難先や避難ルート検討の一助とする。

【現状の内容】

- ・二級河川西川の浸水想定
- ・町内全域の土砂災害警戒区域

【更新内容】

・新たな浸水想定が発表予定の中小河川を追加

取組内容

- ①情報伝達、避難計画等に関する事項
 - 住民等への情報伝達体制や方法について
 - ・緊急速報メール、ICTを活用した情報提供

- 災害情報伝達手段の強化

取組概要

平成30年度に防災行政無線をアナログ方式からデジタル方式へ移行し、屋外スピーカーからの音声放送のほか、携帯電話、ホームページ等で放送内容が確認できるよう整備。

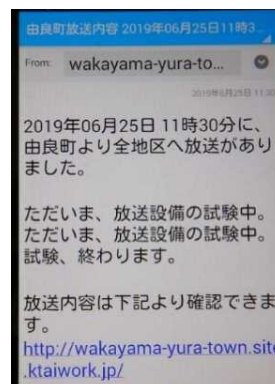
令和3年度からは、新たな手段として、戸別受信機の貸与事業を実施し、伝達手段を強化。

今後についても従来の伝達手段と併せて周知を図り、住民に確実にかつ迅速に災害情報を伝達できる体制整備に努める。



○従来の災害情報伝達手段

・メール配信サービス



・ホームページ



・CATV(ケーブルテレビ)



・電話確認サービス



取組内容

- ③ 氾濫水の排水、浸水被害軽減に関する事項
 - 排水施設、排水資機材の操作・運用について
 - ・ 排水ポンプ車、可搬式ポンプの配備に係る検討及び活用

● 印南地区 排水作業箇所における据え付け型排水ポンプの設置整備

取組概要

現況と課題



◎ 現況

印南地区において印南川へ通じる街中の側溝や排水路から雨水が流れ出なくなることで起こる内水害が発生する恐れが高いことから、平成25年度から可搬式排水ポンプ（5t/分）を排水路に2台設置し内水害を未然に防いできた。

◎ 課題

- ▶ 設置作業の安全確保が困難
- ▶ 迅速な対応が困難

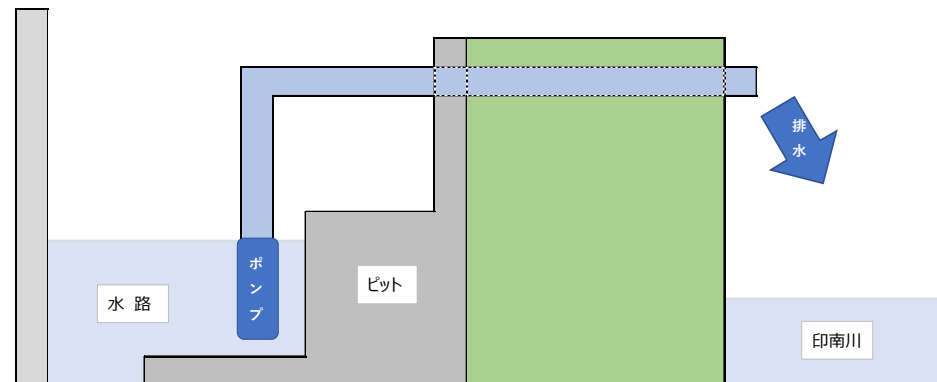
想定外の雨に対応する場合に、排水ポンプ設置まで時間がかかることや、設置作業の危険性が高い。



取り組み内容

印南地区の排水作業箇所において【据え付け型】排水ポンプを整備し、排水作業に係る安全確保と迅速な対応を可能にする。

- ▶ 現況
 1. 作業ピット整備
 2. 据え付け型排水ポンプ設置（4t/分）
- ▶ R3年度 印南川に向かって配管工事予定
- ▶ R4年度以降 据え付け型ポンプの増設



R3. 11月現在 3基設置予定



配管イメージ

取組内容

⑤河川管理施設等の整備に関する事項

■河川管理施設等の整備状況

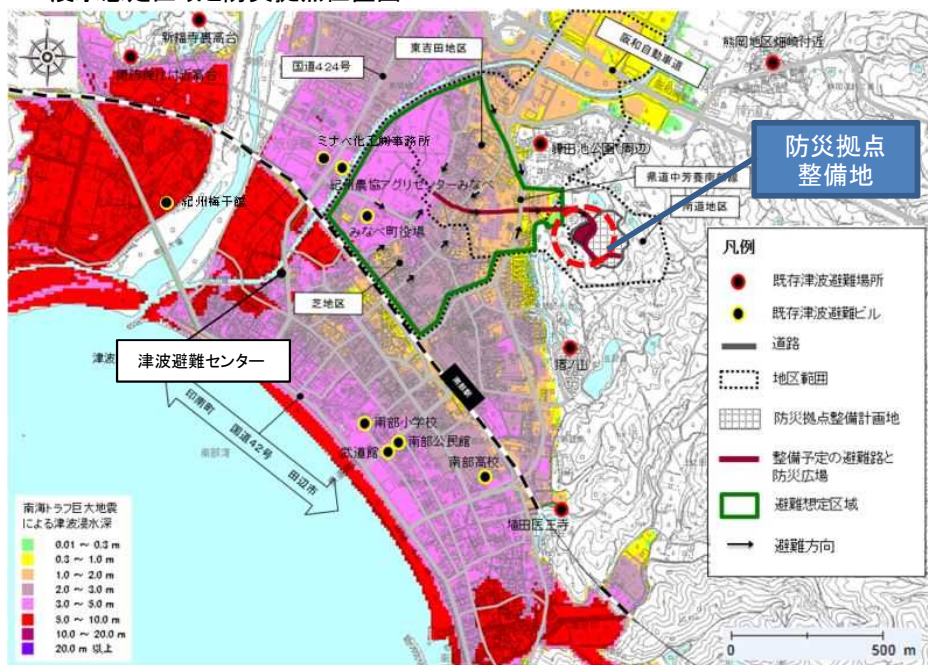
- ・防災用資機材倉庫の整備

●防災備蓄倉庫の新設に向けた取り組み

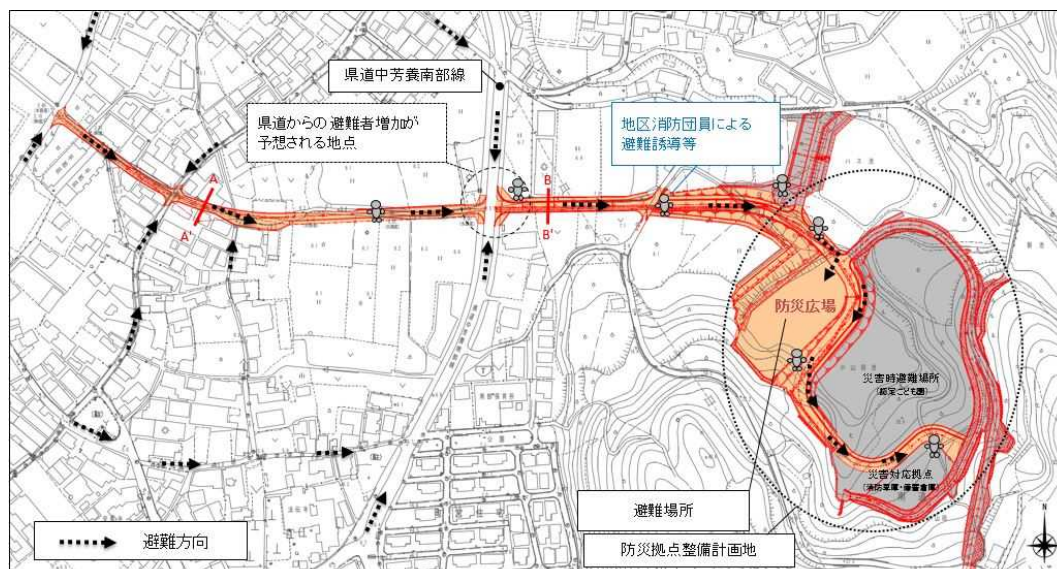
取組概要

現在、みなべ町では東吉田・南道地内に防災拠点整備を進めています。その中には、L2地震による津波の浸水想定区域内にある保育所、幼稚園の移転(令和4年4月開園)、緊急避難場所(高台)の整備、防災備蓄倉庫等の整備を計画し、それに伴う避難路整備を含め取り組みを進めています。令和4年度の取り組みとして、防災備蓄倉庫の整備を実施します。

浸水想定区域と防災拠点位置図



防災拠点計画図



今後の計画

防災備蓄倉庫及び周辺の防災広場等の整備を令和5年度を目標に、取り組みを進めていきます。

取組内容

①情報伝達、避難計画等に関する事項

■防災に関する啓発活動について

・防災(水防)訓練の実施 ・避難対策ワークショップの実施 など

●被害を軽減させる取り組み(令和4年度～)

取組概要

1. 避難訓練や防災訓練の実施

<自主防災組織での取り組み>

令和元年8月 自主防災組織連絡協議会設立
連絡協議会において、地区での取り組み事例の発表
や情報共有、意見交換などを実施することで、地区で
の訓練等の実施を活発化させていく。訓練実施にあ
たっては、実施経費に対する補助金の交付や町職員
が出向き支援していく。

○避難訓練等の実施

各自主防災組織単位で避難訓練や避難所運営など
の訓練を実施する。また、自主防災組織や消防団、民
生委員が協力し、避難行動要支援者にかかる支援体
制を構築し、避難行動要支援者個別計画の作成を推
進する。

○避難対策ワークショップの実施

地域に応じた災害種別の避難対策ワークショップを実
施し、マイタイムライン・マイ防災マップの作成に取り組
んでいく。

適切なタイミングで危険な場所から避難することで被
害の軽減を図る。

2. 避難情報等の確実な情報伝達

<現状と課題>

防災行政無線の整備(H21年度)から10年以上が経過し、戸別受信機も含めて
機器の老朽化が進んでいる。

日高川町では、町内全戸に戸別受信機を無料配布しており、全世帯の約90%
にあたる約4,000台を配布しているが、年々故障等のトラブルが増加している。
また電波不良等により放送が途切れたり、聞こえずらかったりするなどの障害も
発生している。

<令和4年度以降の取り組み>

○防災行政無線操作卓の改修(R6～)

通常の音声放送に加え、音声合成による放送やSNSやホームページ、緊急速
報メールなど様々なメディアへ一斉に情報を配信できる仕組みを構築する。

○防災アプリの導入(R6～)

上記の改修を実施するとともに、防災アプリを導入し、プッ
シュ通知による迅速・確実な情報伝達を整備。

悪天候時などで屋外放送が聞こえずらかったり、室内の
戸別受信機の電波不良により途切れた場合や聞き逃した
場合でも携帯アプリで通知内容を確認できるなど、多様な
情報伝達手段の整備を進める。



取組内容

⑤河川管理施設等の整備に関する事項

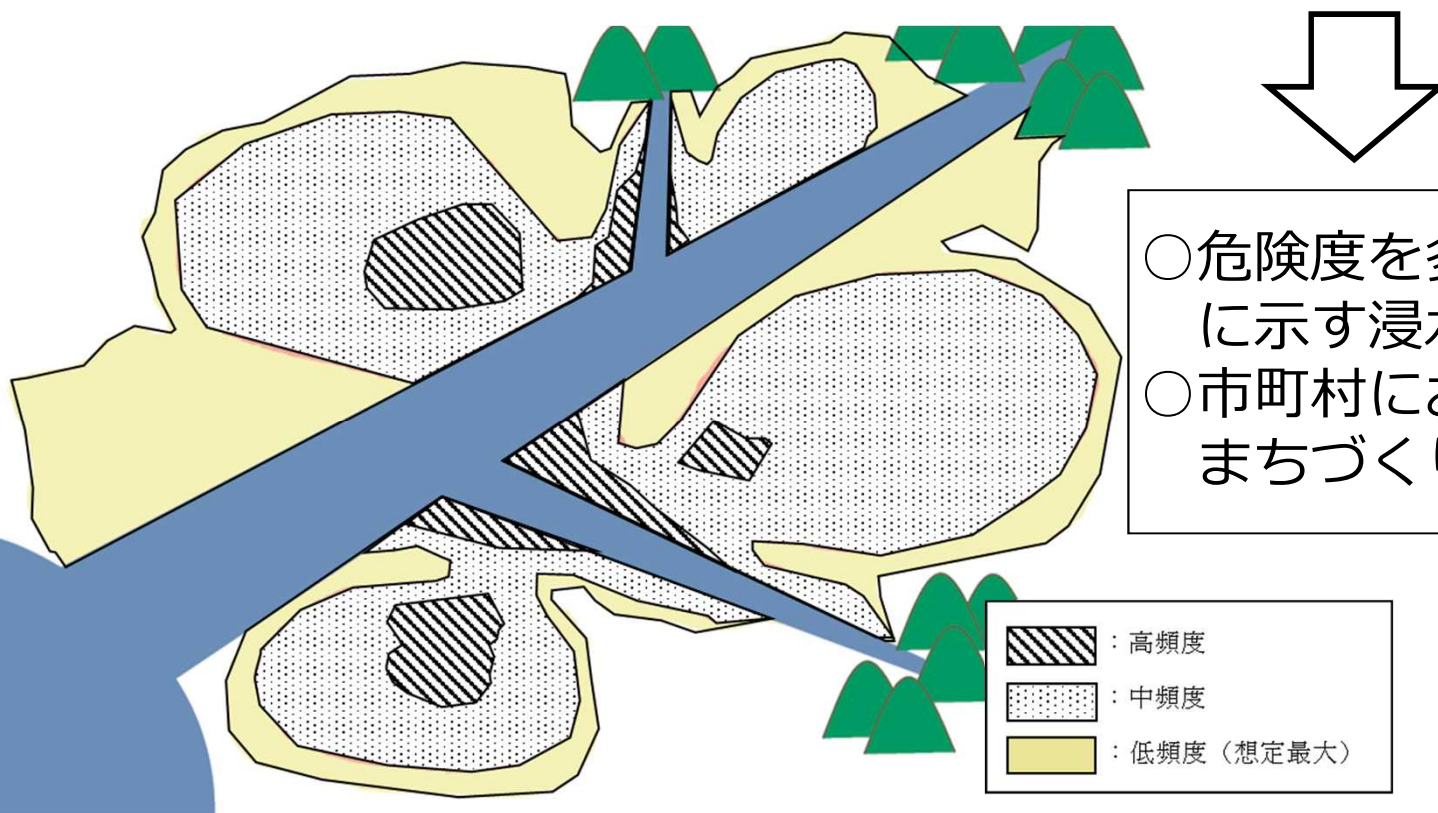
■流域対策に関する取組

- ・まちづくりでの活用のための多段階の浸水想定区域図の作成




●水害リスク情報の高度化

取組概要

- 洪水予報河川及び水位周知河川における想定最大規模・計画規模の浸水想定区域図を作成・公表済み。
- 令和3年度より中小河川においても想定最大規模の浸水想定区域図作成を進めており、避難を目的に浸水する範囲、水深の周知を予定。
- これらの情報は、水害時の円滑かつ迅速な避難を確保する目的で作成されており、相対的な土地リスクの違いが分かりづらく、まちづくりの検討に活用しづらい。



- 危険度を多段階的（高頻度、中頻度等）に示す浸水想定区域図を作成
- 市町村における避難行動の検討や、まちづくり等に活用

	: 高頻度
	: 中頻度
	: 低頻度（想定最大）

【危険度を多段階に示した浸水想定区域図イメージ】

- 老朽化したポンプ場の改築及び改修

取組概要

